

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 穴 戸 稔

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 穴戸 稔

経理責任者氏名 山田真一郎

期 間	令和7年11月8日～9日
用 務 先	東京都 法政大学市谷キャンパス
用 務	全国地方議会サミット 2025
概要及び所見 （目的、参考に すべき事項、提 言、活用策等）	研修目的 人口減少、地域課題の複雑化、デジタル化の進展など、地方自治を取り巻く環境が大きく変化する中で、地方議会に求められる役割も変容している。本サミットでは、「SNS・AI・DX」「主権者教育」「議会改革」「政策形成機能の強化」をテーマとして、先進事例や学識経験者の講演を通じ、これからの地方議会の在り方について学ぶことを目的として参加した。 研修内容の概要 （１）SNSと地方議会 『民意』はどうできていくのか？ SNSの影響と地方議会の方向性 SNS の普及により、市民が直接政治的意見を発信できる時代となった一方、短絡的な情報拡散や感情的対立、いわゆる“炎上”が政治・議会運営に大きな影響を与える状況について議論が行われた。 特に印象的であったのは、SNS 上で可視化される意見が、必ずしも地域全体の「民意」を代表しているわけではないという指摘である。議会には、即時性や感情論に流されることなく、多様な住民意見を丁寧に整理し、中長期的視点から合意形成を図る役割が求められることを再認識した。

概要及び所見 (目的、参考に すべき事項、提 言、活用策等)	また、情報発信についても、「発信量」だけではなく、「信頼性」「説明責任」「対話」が重要であるとの提起がなされ、地方議会自体が情報発信力を高める必要性を感じた。 (2) AIと地方議会 「活性化? 不要? AIで議会・議員はどう変わる?」 生成AIをはじめとする技術革新により、議会活動そのものが大きく変化する可能性について議論が行われた。 AIは、議事録整理、資料要約、政策比較、データ分析などにおいて非常に有効であり、議会活動の効率化や政策立案能力向上に資する可能性が高いとされた。一方で、AIには地域住民の感情、生活実感、歴史文化などを汲み取ることは難しく、最終的な意思決定や合意形成は人間である議員の役割であることが強調された。 今後は、AIを活用しながらも、「地域の声を聴き、現場に立つ議員」の価値がむしろ重要になると感じた。 (3) 主権者教育と若者参加 「子ども・若者との政策づくり」 若者の政治離れが課題となる中、議会が主権者教育に主体的に関与する重要性について、先進議会の実践報告が行われた。 高校生との議場討論、市民一日議会、若者との意見交換など、単なる“イベント”ではなく、実際の政策形成へ結び付けていく取り組みが紹介された。 地方議会は、議決機関であると同時に、「民主主義を学ぶ場」でもあるとの指摘は大変重要であり、地域の未来を担う若い世代に政治参加の機会を保障していくことが、地方自治の持続性に直結することを学んだ。 (4) 議会による政策形成機能の強化 先進議会からは、常任委員会による調査研究、市民との対話、政策提言の仕組みづくりなど、議会自らが政策形成サイクルを回していく実践が報告された。特に、政策提言を「一過性」で終わらせず、調査→提言→検証→改善という循環型で取り組んでいる事例は大変参考となった。 地方議会には、単なるチェック機能だけでなく、「地域の未来を提案する機能」が求められており、そのためには議員個々の調査研究能力向上と、議会全体での政策形成体制強化が必要であると感じた。
---	--

(5) 北川正恭氏 最終講義

サミット最後には、地方分権改革と議会改革を牽引してこられた 北川正恭 氏による最終講義が行われた。講義では、「地方から日本を変える」「善政競争」という理念が改めて示され、地方議会が地域民主主義の最前線であることが強調された。また、議会改革は“目的”ではなく、“住民福祉向上のための手段”であるとの言葉が印象的であり、改革を自己目的化しない姿勢の重要性を学んだ。

所感・今後の活用

今回の研修を通じ、地方議会は今、大きな転換点にあることを強く感じた。SNSやAIの進展により、情報環境や政治参加の形は急速に変化している。しかし、そのような時代だからこそ、地域住民の声を丁寧に聴き、多様な意見を調整し、地域の未来を描いていく地方議会の役割はむしろ重要性を増している。

また、議会は「行政を監視する場」ととどまらず、「住民とともに政策をつくる場」へ進化していく必要があると感じた。

今後は、

- ・ AI等の新技術を活用した議会活動の高度化
- ・ 若者・市民参加の拡充
- ・ 政策提言機能の強化
- ・ 情報発信と対話の充実

などを意識しながら、地域課題の解決に取り組んでまいりたい。

視察等報告（復命）書

三次市議会議員 様

報告者氏名 保実 治

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	実戸 穂	経理責任者	山田真一郎
視 察 議 員				
期 間	2025年11月8日（土）～ 2025年11月9日（日）			
視 察 先	ローカルマニフェスト推進連盟			
視 察 用 務	全国地方議会サミット「地方議会の政策づくり」			
視察先対応者				
概要及び所見	11月8日 (基調講演) 「炎上の時代の政治コミュニケーション」 廣瀬 克哉 法政大学法学部政治学科教授 パネルディスカッション (SNSと地方議会) 「民意はどうできていくか、SNSの影響と地方議会の方向性」 コーディネーター 広瀬 克哉 パネリスト: 大森翔子 法政大学社会学部メディア社会学科 准教授「SNSが有権者に与える影響」 米重 克洋 株式会社JX通信社代表取締役 「インフレとメディアシフトが起こす日本政治の 地殻変動」 パネルディスカッション (AIと地方議会) 「活性化・不要・AI議会・議員はどう変わる、世界と日本の今と未来」			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視 察 議 員				
期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
視 察 先				
視 察 用 務				
視察先対応者				
概要及び所見	パネリスト 高 選 圭 (福島大学地域マネジメント学科教授) 河村 和徳 (拓殖大学経営学部教授) (最新議会改革) 「議会改革のトレンドと注目議会～地域経営のための議会改革度調査から～」 講師 山内 健輔 (早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員) 11月9日 (地方議会の政策づくり) 「実践編①～子ども・若者との政策づくり」 コーディネーター 林 紀行 (日本大学法学部教授/早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員)			

様式2号

視察等報告（復命）書

三次市議会議員 様

報告者氏名

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視 察 議 員				
期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
視 察 先				
視 察 用 務				
視察先対応者				
概要及び所見	ハネリスト 勝山 翔 (富士見市議会議員) 「富士高生の主張 in 富士見市議会」 笹田 卓 (浜田市議会副議長(お議長)) 「主権者教育につながることを意見の施策反映」 田口 裕斗 (NPO法人 DAKKO 理事) 「議員との対話で民主主義の担い手を育てる」 (地方議会の政策づくりへ) 北川 正恭 早稲田大学名誉教授 LM 最終講義 (1) 議会改革と北川 正恭。足跡を再検証する」			

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名山村 恵美子

下記の通り、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者指名 宍戸 稔
経理責任者氏名 山田 真一郎

期 間	2025 年 10月 8日(土) ~ 10月 9日(日)
用 務 先	ローカルマニフェスト推進連盟
用 務	全国地方議会サミット「地方議会の政策づくり」
概要及び所見	<u>11月8日</u> 〔基調講演〕 「炎上の時代の政治コミュニケーション」 廣瀬 克哉 法政大学法学部政治学科教授 パネルディスカッション 〔SNSと地方議会〕 「民意はどうできていくか？SNSの影響と地方議会の方向性」 コーディネーター:廣瀬克哉氏 パネリスト:大森翔子 法政大学社会学部メディア社会学科 准教授「SNSが有権者に与える影響」 :米重克洋 株式会社JX通信社代表取締役 「インフレとメディアシフトが起こす日本政治の 地殻変動」 パネルディスカッション 〔AIと地方議会〕 「活性化？不要？AIで議会・議員はどう変わる？世界と日本の 今と未来」 パネリスト:高 選圭 福島大学地域マネジメント学科教授 :河村 和徳 拓殖大学経営学部教授 〔最新議会改革〕 「議会改革のトレンドと注目議会～地域経営のための議会改革度調 査から～」 講師:山内 健輔 早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員 所見 選挙におけるSNSでの発信は公平な評価を瞬時に否定し、拡散してし まう。一方的な刷り込みはその内容が魔力のように有権者を毒してし

もう危険性がある。SNSで接する政治情報は「偶然的で断片的」なもの。正しい主権者教育の必要性が増し、議会が共に共有し、発信していかなければならない。ただし、政党政治においては多かれ少なかれ主義主張を展開し、それぞれの優位性を確保する。有権者は流されることなく政治に向かい合うことが必要。

基礎自治体議会は市民の福祉向上のためまちづくりに民意をいかに反映するか見極め提案して、行政をその方向に働かせるためチェック機能を果たしていく。法的な根拠や、多くのデータから示すことができるものを選び文言に起こしていく作業はAIの力が必要。ただ自分の理解が追いつかないものを引き出して市民に提供してしまうことは大きな誤りに繋がり、活用については議員が深く学習する必要がある。

11月9日

〔地方議会の政策づくり〕

「実践編①～子ども・若者との政策づくり～」

コーディネーター: 林 紀行 日本大学法学部教授/早稲田大学
デモクラシー創造研究所招聘研究員

パネリスト: 勝山 翔 富士見市議会議員「富士高生の主張in
富士見市議会」

: 笹田 卓 浜田市議会副議長(前議長)

「主権者教育につながるこどもの意見の施策反映」

: 田口 裕斗 NPO法人DAKKO理事

「議員との対話で民主主義の担い手を
育てる」

〔地方議会の政策づくり〕

「実践編②～議会による政策づくり～」

コーディネーター: 江藤 俊昭 大正大学地域創生学部公共政策
学科教授

パネリスト: 勝浦 伸行 一関市議会議員「政策提言等の実施に関
する指針の策定と実践」

高橋 英昭 横須賀市議会 政策検討会議委員長
「政策形成サイクルの
実践と事例紹介」

外山 利章 知名町議会議員「常任委員会による町民
起点の政策提言」

【北川 正恭 早稲田大学名誉教授 LM最終講義】

(1)「議会改革と北川正恭。足跡を再検証する」

コーディネーター: 千葉茂明 公益社団法人日本生産性本部上席
研究員

パネリスト: 江藤俊昭 大正大学地域創生学部公共政策学科教授
廣瀬克哉 法政大学法学部政治学科教授
前田隆夫 西日本新聞論説委員

(2)「LM最終講義」

北川正恭 早稲田大学名誉教授

所見

政策づくりについて事例紹介。議会の政策づくりについて、子ども・若者・地域との連携により市民が求める政策になるようさまざまな取組を紹介された。本市議会も中学生・高校生・地域との意見交換を行ってきたが、その先の提案に踏み切れていない。委員会中心主義の運営を行う中で、提案に結びつけたい。

参考になる事例を発表いただき、今後の取り組みに活かしていきたい。

北川教授の議会改革のについて、早稲田大学マニフェスト研究会での研修、特に議会改革度ランキングについて注視し努力目標にも掲げてきたが、「市民に理解していただく議会改革とは」といつも悶々としてきた。主権者の参画にたどり着けないという課題を抱えた中で、議員活動、議会活動の見える化がまず必要であるとの思いで、本市議会では議員が掲げたマニフェストの自己評価に着手した。見える化することで議員、議会への注目が何某か変化をもたらしたと感じる。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 重 信 好 範

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 宍 戸 稔

経理責任者氏名 山 田 真 一 郎

機 関	令和 7 年 11 月 8 日（土）～ 令和 7 年 11 月 9 日（日）
用 務 先	法政大学市ヶ谷キャンパス
用 務	全国地方議会サミット2025
概要及び所見 （目的,参考に すべき事項,提 言,活用策等）	研修目的： 近年の議会動向を象徴する「SNS・AI・DX」「主権者教育」「議会改革」のトピックスを学び地方議会が進むべき方向性を研修した。 感想： 得に主権者教育について議会改革のひとつであり、将来の主権者に必要な資質を身に付けてもらう活動であるとの視点が新鮮でありました。又、SNS活用、議会による政策づくりなどを学びました。